

## ペテロ第二の手紙2章1-9節 「偽教師たちに対する裁き」

### 1A 中から出て来る偽教師 1-3

1B 滅びをもたらす異端 1

2B 真理の道のそしり 2

3B 食べ物 3

### 2A 怠りない裁き 4-8

1B 罪を犯した天使 4

2B ノアの時代の世界 5

3B ソドムとゴモラの破滅 6-8

### 3A 敬虔な者たちの救い 9

## 本文

ペテロの手紙第二2章に入ります。私たちは、クリスマスの時期に入ってきていますが、そこでイエス様が、ヨハネの福音書 1 章 5 節で、「光はやみの中に輝いている。やみはこれに打ち勝たなかった。」とあるように、暗き世に光としてキリストが来てくださいました。夜に、まばゆいばかりの御使いの集団が羊飼いのところにやって来て、天には神の栄光、地には平和がと歌いました。私たちにとって、孤独、虚しさ、辛い思い、過去の負い目などがあっても、この方こそが光であり、私たちを照らして恵みで満たしてくださいます。

ペテロはこの手紙において、その暗闇の生々しい姿と、その暗闇からもなおも救い出される希望について話しています。ペテロの第一の手紙には、神の教会に対して迫害をする世の姿がありましたが、それでもキリストにあってその苦しみが御心にかなうことを教えて、その立派なふるまい、良い行ないによって、見下している人たち、神を知らない人たちも、神をあがめるようになるという話をしていました。第二の手紙においては、厄介な問題を取り扱っています。それは、教会の内部に、この世のものを持ち込み、しかもそれをキリストの名を使って持ち込んでいくという、偽教師の仕業を取り扱っていきます。

聖書において、いや一般社会でも、外側からの攻撃よりも、内側が攻撃されたら、そのほうがもっと打撃が強いです。裏切りが最も、私たちを弱らせます。しかし、この世界を神が造られた時以来、この厄介な戦いは初めから続いていました。神の御座に最も近くにいた最高級の天使が、神よりも高くなろうとして墮落して、反抗しました。神のかたちに造られたアダムとエバの間に、蛇が入ってきました。兄カインが弟アベルを殺しました。全て、遠くからくる敵ではなく、すぐそばで、その親密な結びつきがあるところに亀裂と分裂を走らせることによって、なし崩しにしようとする。

ペテロは、自分自身が間もなくローマによって死刑に処せられることを知っていました。これまでパウロもそうですが、使徒たちがイエス・キリストによって、教会の土台作りをしました。それぞれが、その土台から各自が主にあって動いていくことによって、家を建てていきます。しかし、その土台をどんな材料で建てるのかは、私たちが注意していないといけません。ペテロは、この手紙を読む信者たちに、自分が教えたことを思い起こそうとさせていました。そうです、これまで教えたこと、使徒たちの教えをしっかりと思い起こし、それで純粋な思いを奮い立たせることが私たちの務めです。「これは聞いている、これは知っている」としているところに危険が入り込みます。

### **1A 中から出て来る偽教師 1-3**

#### **1B 滅びをもたらす異端 1**

1 しかし、イスラエルの中には、にせ預言者も出ました。同じように、あなたがたの中にも、にせ教師が現われるようになります。彼らは、滅びをもたらす異端をひそかに持ち込み、自分たちを買いつけてくださった主を否定するようなことさえて、自分たちの身にすみやかな滅びを招いています。

ペテロは、彼らに、キリストの力と来臨の真実を思い起こさせました。それは作り話ではなく、彼自身が、高い山でイエス様が栄光の輝きの姿に変えられたのを目撃しました。そして、何よりも、預言の言葉があり、それは確かであると言ったのです。それで、暗き世を照らす灯としていなさい、明けの明星であるキリストが来られるまで、そのようにしておきなさいと話しました。そして、一つ注意を与えました。預言は、私的解釈ではなく、聖霊に動かされた人によって書かれたのだということです。ですから、私的解釈をするという危険があるのですが、見事にそれをしていく者たちが現れるということでもあります。

「イスラエルの中には、にせ預言者も出ました」と言っています。イスラエルの民に、まじない師であるバラムがイスラエルを呪うおうとしたところから、偽預言者の姿が現れます。そして、イスラエル人やユダヤ人たちの間からも、数多く出てきました。アハブ王の前で、アラム王と戦って勝つことができると、多くの預言者が預言していたのですが、唯一、ミカヤという預言者が、アハブが必ず取られることを預言しました(1列王 22 章)。バビロンが、エルサレムに迫って来つつあるエルサレムは、熾烈な預言者の戦いがありました。ユダヤ人に罪があり、彼らが悔い改めなければバビロンによって滅ぼされるという預言を行なったのは、エレミヤと僅かな預言者のみでありました。他の預言者は、「主の御告げ — わたしがバビロン王のくびきを打ち砕くからだ。(28:4)」と、すぐにでもバビロンから解放されることを話していました。主は、それらの預言者について、ただ自分の心にあることを語っているだけで、偽っていることを語られています。「あの預言者たちは、わたしの名によって偽りを預言している。わたしは彼らを遣わしたこともなく、彼らに命じたこともなく、語ったこともない。彼らは、偽りの幻と、むなしい占いと、自分の心の偽りごとを、あなたがたに預言しているのだ。(14:14)」

イエス様は、初めから偽預言者の存在を語っておられました。山上の垂訓の最後は、偽預言者についての警告でした。「マタイ7:15-16にせ預言者たちに気をつけなさい。彼らは羊のなりをしてやってくるが、うちは貪欲な狼です。あなたがたは、実によって彼らを見分けることができます。ぶどうは、いばらからは取れないし、いちじくは、あざみから取れるわけがないでしょう。」罪について、罪であることを言わない、むしろ羊飼いなのに、羊を養わずに、羊を食べてしまうような貪欲な狼なのだと言われます。そしてこのような者たちは、イエス様の名によって預言をし、悪霊を追い出すことさえします。けれども、「7:23 わたしはあなたがたを全然知らない。不法をなす者ども。わたしから離れてゆけ。」と言われます。そして、イエス様はヨハネ10章ではご自身が良き羊飼いだけれども、盗人や強盗がいると言われました。このように、偽預言者、あるいは偽教師は、身近にいることを警告しています。

そして、この者たちが、「滅びをもたらす異端をひそかに持ち込」むと言っています。「異端」とは、元々の意味は「選択する」ということらしいです。そして、派生して「分派」という意味があります。そうです、私たちが使徒たちの教えに従い、イエス・キリストを主としてあがめている中に、分裂をもたらすように仕向けていきます。「ローマ16:17-18 兄弟たち。私はあなたがたに願います。あなたがたの学んだ教えにそむいて、分裂とつまずきを引き起こす人たちを警戒してください。彼らから遠ざかりなさい。そういう人たちは、私たちの主キリストに仕えないで、自分の欲に仕えているのです。彼らは、なめらかなことば、へつらいのことばをもって純朴な人たちの心をだましているのです。」分裂や分派は、肉の働きであるとガラテヤ書5章にあります。異端の始まりは、主イエス・キリストにあって一つになっている交わりに、自分に仕えたいがために分裂を引き起こすところから始まります。例えば、「あなたは、牧師の側につくのですか、それともこちら側につくの？」という問いかけを、言葉には言い表さなくてもするでしょう。

そして「ひそかに」持ち込むのです。そのような人たちは、真理を語っています。けれども、真理と共に何か他の意図も付け加えています。いつの間にか、偽物を忍び込ませています。自分の欲に仕えるように、真理を語りながら、また異質なものを付け加えながら話し、ついには真理に真っ向から反することを信じるようにさせます。

そこで、「自分たちを買い取ってくださった主を否定するようなことさえして」とあるのです。私たちが今、ここにいるのは、主が私たちをご自分の流された血によって買い取ってくださったからです。しかし、心の定まらない人、弱い人が、そのような者たちの惑わしによって、その言葉を信じていき、結果として主を真っ向から否定するようなことを言わせたり、やらせたりします。主に従っているのであれば、到底、そんなことはできないということを行なわせていきます。私は、自分自身が異端の教えを、新しく信じた時に聞いてしまった苦い経験があります。その時に、キリストの十字架の場面を聖書で読みました。そこで、「あなたが神の子ならば、十字架から降りて来てもらおうではないか。」と罵った者たちの言葉に、同意してしまっている自分がいたのです。そんな弱い救世主で

あれば、信じないほうがよい。救世主が十字架に付けられるなど、そんなこと失敗に違いないと思っていたのです。激しく、悔い改めました。

ゆえに、「自分たちの身にすみやかな滅びを招いています」ということになるのです。十字架によってのみ、復活によってのみ、その福音によってのみ、私たちは滅びから免れます。けれども、それを否定するのですから、自分の身に滅びを招いてしまうのです。ペテロが手紙を書いた時は、これは霊的な滅びのみならず、肉体的な滅びも含まれているようです。性的な不品行を行なって、それで性病にかかるとか、滅びを招いていることが考えられます。次の節に「好色」という言葉があるからです。ペテロは、救いについて何と教えていたでしょうか？「1:4 あなたがたは、その約束のゆえに、世にある欲のもたらず滅びを免れ、神のご性質にあずかる者となるためです。」世の滅びから免れるために、救われました。神のご性質にあずかるために救われました。その方向とは正反対の方角に、人々を進ませます。しかも、そのように仕向けられているということが分からないような形で、秘かにその異端の教えを忍び込ませます。

## 2B 真理の道のそしり 2

2 そして、多くの者が彼らの好色にならい、そのために真理の道がそしりを受けるのです。

これら偽教師の特徴は、「好色」に倣わせるということです。ここの好色とは、性的なものもありまじ、感覚的なものと呼んでもよいでしょう。神の真理ではなく、その人の感覚に訴えます。私たちは、感覚が最も大事だと勘違いすることがあります。しかし、霊的であることは、必ずしも感じることは限らないのです。霊的なことは、感覚を超えています。言葉に言い尽くせない喜び、理解をはるかに超える平安など、一見、感覚としては不快なものもあるかもしれませんが、それらを超えて与えられる喜びであったり、平安であったり、愛であったりするのです。私たちの感覚を超えたところにある、神の真理に基づいて動くところにある喜びや平安が、霊的と呼ばれるものです。

しかし、そのような感覚に訴えるので、「多くの者」がそれに倣っていくのです。僅かではなく、多くが倣っていきます。イエス様が言われました、「マタイ 7:13 狭い門からはいりなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広いからです。そして、そこからはいつて行く者が多いのです。」そして、多くの者たちが耳障りの良い教師を寄せ集めることを、パウロは予告しています。「2テモテ 4:3-4 というのは、人々が健全な教えに耳を貸そうとせず、自分につごうの良いことを言ってもらうために、気ままな願いをもって、次々に教師たちを自分たちのために寄せ集め、真理から耳をそむけ、空想話にそれて行くような時代になるからです。」神の真理よりも、自分たちを愛してくれるような話は、当然ながら空想話になっていきます。

なぜ、キリスト者が偽物になっていくのか、それは世にあるものを愛しながら、なおのこと敬虔を装う時です。「2テモテ 3:1-5 終わりの日には困難な時代がやって来ることをよく承知しておきなさい

い。そのときに人々は、自分を愛する者、金を愛する者、大言壮語する者、不遜な者、神をけがす者、両親に従わない者、感謝することを知らない者、汚れた者になり、情け知らずの者、和解しない者、そしる者、節制のない者、粗暴な者、善を好まない者になり、裏切る者、向こう見ずな者、慢心する者、神よりも快樂を愛する者になり、見えるところは敬虔であっても、その実を否定する者になるからです。こういう人々を避けなさい。」自分を愛すること、それから出て来るあらゆる悪いものを見る時に、これこそ世の流れだと思いますが、もっと恐ろしいのは、それが見えるところは敬虔である、敬虔を装っているというところにあります。こうした偽善に、私たちはきをつけなければいけません。イエス様も、パリサイ人の偽善をパン種であるから気を付けなさいと言われました。

### 3B 食べ物 3

3 また彼らは、貪欲なので、作り事のことばをもってあなたがたを食べ物にします。彼らに対するさばきは、昔から怠りなく行なわれており、彼らが滅ぼされないままにいることはありません。

偽教師の特徴は、好色、感覚に訴えることだけでなく、「貪欲」ということです。先に読んだローマ 16 章には、「私たちの主キリストに仕えないで、自分の欲に仕えている」とありました。私たちは今、ゼカリヤ書を日曜礼拝で学んでいますが、羊飼いが羊を食べさせるのではなく、自分たちが羊を食うという問題があったことを話しています。エゼキエル書にも、そのことが書いてありましたが、それゆえにバビロン捕囚が起こったことを話していますし、ゼカリヤ書では、イエス様が地上に来られた当時の宗教指導者がそうであったので、ローマによってエルサレムが破壊され、ユダヤ人が散り散りになったことを話しています。ミカも雄弁に、貪欲のために生きる預言者や祭司の姿を描いています。「ミカ 3:11 そのかしらたちはわいろを取ってさばき、その祭司たちは代金を取って教え、その預言者たちは金を取って占いをする。しかもなお、彼らは主に寄りかかって、「主は私たちの中におられるではないか。わざわいは私たちの上にかかって来ない。」と言う。」私たちが、主に仕えていると言いながら、実は、自分の必要を満たすためにそれを利用することがあります。自分の心理的な必要を満たすため、また物質的な必要を満たすためにすることもあります。

そして、「作り事のことばをもってあなたがたを食べ物にします」と言っています。上手に、自分の貪欲を満たすために、真実ではない言葉を、まだ心の定まっていない人や、弱い人、よく知らない人々を利用するのは、自分のことについて、作り上げるのです。真実な奉仕者は、自分のことについて作り上げることをしません。そのまま、主に仕えている自分を人々が見ることができるようにしています。「2コリント 4:2 恥ずべき隠された事を捨て、悪巧みに歩まず、神のことばを曲げず、真理を明らかにし、神の御前で自分自身をすべての人の良心に推薦しています。」イエス様は、そのような方でした。ご自身を繕うことをされませんでした。そして、へりくだった方、柔和な方でした。貧しい方でした。それは、ケチということではなく、人々を豊かにするために、貧しくなられていました。「2 コリント 8:9 あなたがたは、私たちの主イエス・キリストの恵みを知っています。すなわち、主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられました。それは、あなたがたが、キリ

ストの貧しさによって富む者となるためです。」

## **2A 怠りない裁き 4-8**

そして、「彼らに対するさばきは、昔から怠りなく行なわれており、彼らが滅ぼされないままでいることはありません。」とペテロは言っています。ゼカリヤ書において、私たちは前回 9 章 3 節において、「わたしの怒りは羊飼いたちに向かって燃える。」と読みました。そして、イエス様は山上の垂訓の最後で、偽預言者たちがいくら預言しても、悪霊を追い出しても、奇跡を行なっても、不法を行なう者ども、出ていけと言われて、神の御国に入れないようにされました。これから、主は三つの人々に対する、怠りのない裁きを語られます。

### **1B 罪を犯した天使 4**

4 神は、罪を犯した御使いたちを、容赦せず、地獄に引き渡し、さばきの時まで暗やみの穴の中に閉じ込めてしまわれました。

この「罪を犯した御使いたち」が誰なのか？であります。次の 5 節にノアの時代の話がありますので、それと関わりがある話です。そうです、創世記 6 章において主が、罪を犯した御使いたちの話をしておられます。「6:1-4 さて、人が地上にふえ始め、彼らに娘たちが生まれたとき、神の子らは、人の娘たちが、いかにも美しいのを見て、その中から好きな者を選んで、自分たちの妻とした。そこで、主は、「わたしの霊は、永久には人のうちにとどまらないであろう。それは人が肉にすぎないからだ。それで人の齢は、百二十年にしよう。」と仰せられた。神の子らが、人の娘たちのところにはいり、彼らに子どもができたころ、またその後にも、ネフィリムが地上にいた。これらは、昔の勇士であり、名のある者たちであった。」ここにある、「神の子」というのが御使いたちのことです。ヨブ記 1 章 6 節に、主のところに「神の子らが来て立っていた」という話があります。天使がそのように呼ばれています。

にわかに信じがたいことですが、御使いが人の姿を取ることは、アブラハムの前に旅人としてきた時もそうであり、イエス様が復活し昇天される時も青年の姿をして現れましたし、それは不思議ではありません。そして、情欲を抱いて人間の女たちを犯していきました。そのために主は、地上における人々の命は、あと 120 年間しかないと決められたのです。メシヤが女の子孫から出るといふ約束が創世記 3 章 15 節にありますから、悪魔は何とかしてその子孫を滅茶苦茶にしようと躍起になっていたということです。

このように主のご計画の中にはいり込んで来る者たちは、御使いであっても怠りない裁きを行なわれます。「地獄に引き渡し」とあります。これはギリシヤ語で、「タルタルス」と言います。御使いが、最後の審判の時に裁かれるまで閉じ込められている穴であることが分かります。似たような場所で、「アビス」があります。底知れぬ所です。そこにも、悪霊どもが閉じ込められていて、アビス

のほうは、時に解き放たれて、主がその墮落した天使どもをご自分の御用のために使われることがあります。黙示録 9 章にある、いなごのような存在で、さそりのような毒を持っていた存在が、そうでした。そして、悪魔自身が、イエス様の再臨後、底知れぬ所に千年間、鎖で縛られていて、それから解き放たれます。

## 2B ノアの時代の世界 5

5 また、昔の世界を赦さず、義を宣べ伝えたノアたち八人の者を保護し、不敬虔な世界に洪水を起こされました。

次は、ノアの時代に、洪水で裁かれた者たちであります。ノアが、箱舟を造るように命じられました。その時に、創世記には書かれていませんが「義を宣べ伝えた」とあります。その間、主の言葉、主の義をそこにいる人々に宣べ伝えていました。主がなぜ世界を洪水で裁かれたのか？それが、「不敬虔な世界」とあります。墮落した天使どもがやって来たというのも酷いことですが、人々も悪に思いが傾き、世界は暴虐に満ちていました。

それで主は裁かれますが、ここでペテロは、主が彼らを「保護」したと言っています。ここが大事な点です。不敬虔な世界であります。主は彼らをご自分の恵みの中で保護しておられました。そして洪水が来た時も、その箱舟の中で神の裁きから彼らを保護していました。箱舟について、ペテロは第一の手紙で既に、水を通して救われるバプテスマを意味していることを話していました。「3:20-21 昔、ノアの時代に、箱舟が造られていた間、神が忍耐して待っておられたときに、従わなかった霊たちのことです。わずか八人の人々が、この箱舟の中で、水を通して救われたのです。そのことは、今あなたがたを救うバプテスマをあらかじめ示した型なのです。バプテスマは肉体の汚れを取り除くものではなく、正しい良心の神への誓いであり、イエス・キリストの復活によるものです。」

イエス様は、義を宣べ伝えるような者たち、主の証しを立てる者たちを保護してください。「ヨハネ 17:15-17 彼らをこの世から取り去ってくださるようではなく、悪い者から守ってくださるようお願いいたします。わたしがこの世のものではないように、彼らもこの世のものではありません。真理によって彼らを聖め別ってください。あなたのみことばは真理です。」

## 3B ソドムとゴモラの破滅 6-8

6 また、ソドムとゴモラの町を破滅に定めて灰にし、以後の不敬虔な者へのみせしめとされました。  
7 また、無節操な者たちの好色なふるまいによって悩まされていた義人ロトを救い出されました。  
8 というのは、この義人は、彼らの間に住んでいましたが、不法な行ないを見聞きして、日々その正しい心を痛めていたからです。

三つ目は、ソドムとゴモラでは、ユダの手紙によると、同性愛が堂々に行なわれていたことがわかります。ロトの家に来た二人の御使いに対し、「おれらは、あいつらを知りたいのだ。」とロトに詰め寄っているソドムの者たちがいましたが、それはまさしく、男性の姿であった御使いたちを陵辱したかったからです。そのために、火と硫黄がその町に降り注ぎました。その時にロト自身は、彼はその二人の御使いによってソドムの町を、二人の娘とまた妻といっしょに出て行きました。妻は後ろをふりむいたために塩の柱となりましたが、ロトと二人の娘は出て行くことができました。

創世記だけを読んでいると、あまり分からなかったことをペテロはここで解説しています。ロトは、ソドムの町にいて、悩み苦しんでいたのです。ロトは初め、ソドムの町の近くに住み、次にソドムの町の中に住み、ついにソドムの町で役人を行なっていました。悪に引き寄せられていたのですが、彼自身の心は主から離れていませんでした。信仰による義、彼自身は不完全でありましたが、それでも主を信じる信仰によって、心は変えられていました。そして、彼の行ないではなく、憐れみのゆえに、御使いを通して、ソドムへの神のさばきから救うことに決めておられたのです。

私たちの心はどこにあるでしょうか？正しい心は、不法な行ないや無節操な好色な振る舞いについて、悩み、心を痛めているでしょうか？それとも、無関心であるでしょうか？あるいは、自分自身がそのことを心で楽しんでいるでしょうか？御霊によって新たにされた心は、ロトのように、肉の弱さを持っていても、それでも心において神の教えを喜び、それに従いたいと願っています。

### **3A 敬虔な者たちの救い 9**

9 これらのことでわかるように、主は、敬虔な者たちを誘惑から救い出し、不義な者どもを、さばきの日まで、懲罰のもとに置くことを心得ておられるのです。

ロトがソドムの町を出てから、ソドムの町は滅ぼされました。同じように、信仰によって義と認められ、新しいいのちが与えられた者たちは、地上に下る神の怒り、すなわち大患難を通らずに済むことができます。「1テサロニケ 5:9 神は、私たちが御怒りに会うようにお定めになったのではなく、主イエス・キリストにあって救いを得るようにお定めになったからです。」具体的には、主イエスが天から下って来られて、私たちは空中に引き上げられることによって、この世界から救い出されます。「1テサロニケ 4:16-17 主は、号令と、御使いのかしらの声と、神のラツパの響きのうちに、ご自身天から下って来られます。それからキリストにある死者が、まず初めによみがえり、次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。このようにして、私たちは、いつまでも主とともにいることとなります。」

ペテロは、このようにして、不義な者どもに対する怠りない裁きを行なわれることを話しました。「さばきの日まで、懲罰のもとに置く」と話していますが、偽教師においてはハデスに行くことを意味していることでしょう。そしてよみがえり、そこで神から審判を受け、火と硫黄の池に投げ込まれ



ます。しかし、神は、敬虔な者たちは必ず誘惑から救い出してくださることをもって、励ましています。覚えていますか、主が祈りなさいと命じられた祈りの中に、「我らを試みに合わせず、悪より救い出したまえ」であります。私たちは、その誘惑にあっても、それでそれに耐えることができるように、神が力を与えてくださるし、逃れの道を備えてくださっています。そして、主は必ず、私たちが世を滅ぼされる前に、そこから救い出してくださるのです。これが、ペテロが伝えたかったことです。五旬節の時に、すでに「この曲がった時代から救われなさい。(使徒 2:40)」と言って、悔い改めてイエス様を信じた者たちに勧めました。

私たちも、神の救いを待ち望みましょう。巷では、クリスマスだからこそ乱れる時期です。しかし、その時にそれでも光を求めている人々が大勢います。キリストこそが光であることを知らせることができますように。